

## 現地実態調査にみる小麦「さぬきの夢 2009」の低収要因と改善方向

河田和利・中西充

香川県農業試験場研究報告 第70号(2019年3月)25-37

1. 香川県産小麦における近年の単収低下の背景には、経営体へのほ場集約化による規模拡大の影響が考えられた。現地実態調査結果から、麦の生産安定に必要な基幹的管理作業の実施に十分対応できない現状が想定された。
2. 低収ほ場における単収低下の主な要因は、排水不良による湿害、土壌の酸性化、肥効の低下であった。米麦輪作や麦単作などのほ場の来歴や排水の良否、施肥の多寡等、ほ場により各要因の関与する状況は様々であった。
3. 単収と穂数、千粒重、容積重等、収量構成要素との相関は強かった。低収要因を軽減するための適切な対策を講じることにより、収量改善は期待できることが示唆された。

キーワード:小麦, 現地調査, 土壌水分, 地下水位, 土壌 pH, 葉色